

| 月例経済報告（2025年12月）

● 月例経済報告（12/19）

基調判断	(12月) 景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。 (11月) 景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。
個人消費	(12月) <u>持ち直しの動きがみられる。</u> (11月) <u>持ち直しの動きがみられる。</u> 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2020年=100)
設備投資	(12月) <u>緩やかに持ち直している。</u> (11月) <u>緩やかに持ち直している。</u> 製造業・非製造業の設備投資(名目額) (兆円)
住宅建設	(12月) 建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる。 (11月) 建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる。 住宅着工戸数（季節調整値） (年率、万戸)
雇用情勢	(12月) 改善の動きがみられる。 (11月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 (万人) (％)

生産	(12月) 横ばいとなっている。	
	(11月) 横ばいとなっている。	
輸出	(12月) おおむね横ばいとなっている。	
	(11月) おおむね横ばいとなっている。	
国内企業物価	(12月) このところ <u>緩やかに上昇</u> している	
	(11月) このところ横ばいとなっている。	
消費者物価	(12月) 上昇している。	
	(11月) 上昇している。	
海外経済	(12月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、米国の関税率引上げに伴う不透明感が続いている。先行きについては、地域によってばらつきはあるものの、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、米国の政策動向による影響や金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。 (11月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。ただし、米国の関税率引上げに伴う不透明感が続いている。先行きについては、地域によってばらつきはあるものの、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、米国の政策動向による影響や金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。	

月例経済報告：内閣府